



センター NEWS

Wakayama
International
Exchange
Center
News

2018年3月発行



和歌山県人移住 100 周年 記念式典



2017年10月29日ブラジル和歌山県人会（谷口ジョゼー真一郎会長）は、和歌山県人ブラジル移住 100 周年記念式典をサンパウロ市聖州議会にて開催した。和歌山県からは仁坂吉伸知事をはじめ当協会の榎畑直尚理事長、またメキシコ、ペルー、アルゼンチン3カ国の県人会から20人以上の慶祝団が出席した。総計 400 人以上の関係者が盛大に節目の年を祝った。（1～2ページで紹介）

《目次》

- P1-ブラジル移民 100 周年から見たこと-1
- P2-ブラジル移民 100 周年から見たこと-2
-サマーフェスタ 2017 報告 Part 2
- P3-サマーフェスタ 2017 報告 Part 2
- P4-中南米移住者子弟受入事業
- P5-ネットワーク推進会議から

URL : <http://www.wak-kokusai.jp>



特集「ブラジル移民 100 周年から見たこと」-1

大山国際交流コーディネーターがブラジルに5日間滞在した体験記



●ふるさとの地「和歌山」への想い

10月28日仁坂県知事、当協会榎畑理事長をはじめとした和歌山県の慶祝団がサンパフロに到着した際、30名以上の県人会会員が空港で出迎えてくれました。とても熱烈な歓迎で到着した時は大きな拍手が湧きました。また2日後にブラジル和歌山県人会館にて歓迎会が催された際には、県人会特製のお好み焼きなど心のこもった料理でもてなしていただきました。会館の壁には仁坂知事の写真が飾られていて、和歌山県への深い想いを実感しました。



空港で和歌山からの慶祝団一行を迎えるブラジル和歌山県人会



ブラジル和歌山県人会館にて歓迎会に出席する和歌山県の慶祝団

日系2世の辻ジェームスさん宅に招いていただいた際、ご家族のブラジルでの生活の様子やそれまでの歩みについての貴重な体験談を話していただきました。ブラジル社会で生きていくために必死でポルトガル語を勉強されたこと、またお父様が経営する縫製工場で起こった被害の事などでした。たとえ騙されるような立場であっても相手に対して最後まで誠意を尽くすという姿勢に心を打たれました。またアサイーというアマゾン原産のフルーツは、健康効果があり民間医薬として広くブラジル人に親しまれているといったお話もとても印象的でした。



日系2世の辻ジェームスさんによるブラジル紹介

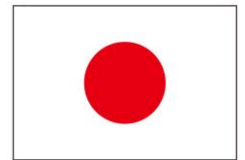


ブラジルを代表する家庭料理などを扱うレストラン

●代表的なブラジル料理「フェイジョアーダ」

一般的には、アフリカから連れてこられた奴隷たちがブラジルで考案した料理と言われ、農場主らのために豚の上質な肉を取った残りの部分（主に内臓、そして耳や鼻、足、しっぽなど）や豆などを加えた料理とされています。ブラジルの壮大な移民の歴史を垣間見ることができる料理を味わうことができました。また、滞在中ブラジルの食文化に根付いた肉料理を毎日食べました。ブラジル社会の活力の源がこういった肉料理から来ているのであろうと想像できました。

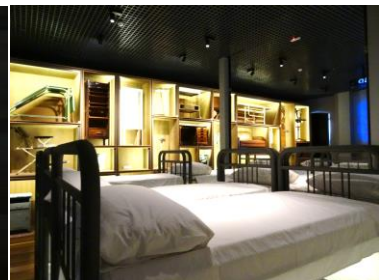
特集「ブラジル移民 100 周年から見たこと」-2



●ブラジル移民博物館（写真左）

19～20 世紀、70 以上の国々からの移民がブラジルにきました。船でサントス港に到着した移民は、蒸気機関車（写真左下）でこの場所（当時は移民収容所）に到着し、その後雇用先に向けて各地へと出発しました。（写真左：左から檜畑理事長、辻ジェームス氏、大山）

館内では寝室（写真右下）、診療室、理髪椅子などの当時の様子がよく分かる展示がされていて、タイムスリップしたような感覚になりました。今日のブラジルの多民族社会は 250 万人もの移民により形成されており、歴史や文化を形成する上で大きな影響をもたらしました。日本人に対する印象は好意的で、「ジャポネス・ガランチード＝信頼できる日本人」という言葉も定着しているほど、政府や軍の高官から文化や芸術の分野に至るまで、多くの日系人が活躍しています。きっとコツコツと真面目に努力した日本人移民はブラジル社会で信頼を勝ち取り、ブラジルの多くの人達に必要とされたのだらうと思いました。自分が日本人であることに改めて誇りを感じました。



サマーフェスタ 2017 の現場から Part-2

8月27日(日)県民交流プラザ和歌山ビッグ愛8階でサマーフェスタ 2017 を開催しました。様々な国の文化や言語を体験していただく主旨の下、175名の方々に参加していただきました。ベリーダンス、空手、カポエイラの演舞・演武体験、外国語サロン、外国のあそび、さらにいろいろな言葉で読み聞かせなども行いました。今回は Part-2 として、外国のあそびと外国語サロンの交流の様子などご紹介します。



外国のあそび

～ロシアのマトリョーシカ作り～

ロシア出身のマルガリータさんに指導してもらいながら、色とりどりの画用紙やシール、ビーズなどを使って、可愛いマトリョーシカを作りました。できた「大・中・小」のマトリョーシカを、それぞれ違うサイズの紙カップに貼って、完成です！



外国のあそび ～中国の「毽子(ジェンズ)」遊び～

初めて見るカラフルな羽を使った中国の「毽子」。遊び方は日本の蹴鞠に似ています。中国出身の和歌山大学留学生周翔さんに蹴り方を教えてもらって、何回も挑戦しました。あっ！蹴った「毽子」が頭上に飛んでいきました！



英語



フランス語



アラビア語



韓国語



英語はイギリスのベンさんに、フランス語はカナダのルイさんに、アラビア語はチュニジアのマヘデイさんに、そして韓国語は韓国の金さんにそれぞれの言語や文化を紹介していただきました。フレンドリーな講師達のもと、笑顔と笑いが絶えない賑やかなプログラムとなりました。各30分のセッション（計4回実施）では、あいさつなどの日常的な表現を実践し、また各国の食文化や独自の慣習・行事について聞いていただきました。「普段はあまり外国の事を知る機会が少ないけど参加して親近感が湧いた」、「また参加したい」、といった感想もいただきました。



また、外国人講師達にとっても異国の地で自国の文化を紹介したことは、自分らしさを表現し、アイデンティティーをより深く認識すると共に、日本人との親睦を深められた有意義な機会となったことと思います。お互いの違いを理解し尊重し合い、多様な人達と共に高め合っていける社会づくりを目指していきたいです。

中南米移住者子弟受入事業を実施しました



中南米移住者子弟受入事業とは、昔和歌山県から中南米へ移住した人々の子どもや孫、またその下の世代など（以下「子弟」と呼ぶ）を彼らのルーツとなる和歌山県に招き、日本や和歌山について理解を深めてもらうことを目的に実施しています。中南米には和歌山県人会と呼ばれる、和歌山から移住した人々によって作られた会がブラジル・パラグアイ・ペルー・アルゼンチン・メキシコにあり、今年度はブラジルとパラグアイから2人の若者を迎えました。初めは、緊張気味だった2人もホストファミリーの温かい歓迎を受け、様々なことに積極的にチャレンジし、有意義な3週間を過ごすことができました。

子弟プロフィール

	 ブラジル 和歌山県人会子弟	 パラグアイ 和歌山県人会子弟
氏名：	馬場 マテウス健市	松宮大江 クリスティアン淳
年齢：	16歳	20歳
出身都市：	サンパウロ州	イタプア州
職業：	高校生	大学生（農学部）
和歌山とのつながり：	曾祖父（母方）が熊野川町（現新宮市）出身	祖父（父方）が湯浅町出身
感想：	ゴミがなく、街がきれい。和歌山城が美しかった。自分のルーツを知ることができ、世界に対する視野を広げることができた。	湯浅は古い町並みが残っていてきれいだった。那智の滝や高野山といった色々な場所に行けてよかった。

2人は1月26日から2月16日までの3週間、和歌山県に滞在しました。滞在中は、県内の大学・高校を訪問し、授業参加やプレゼンテーション発表などで同世代の青少年と交流を深めたり、国際交流イベント「グローバルセミナー」でプレゼンテーションやクイズゲームを通してブラジルやパラグアイの紹介をしたりしました。

また、それぞれのルーツとなる湯浅町と旧熊野川町を訪問しました。松宮くんはおじいさんの生家跡地や母校を訪問し、馬場くんは親戚の方にお会いし、お墓参りをさせてもらいました。馬場くんは「初めてきた場所なのに、初めての気がしない。不思議な感覚がする。」とっていました。

さらに、毎年恒例のプログラムとして、和歌山県知事・県議会表敬訪問や和菓子作りなども経験し、盛りだくさんの滞在となりました。それだけでなく、ホストファミリーの方々が2人をもてなすために観光地や温泉、バッティングセンターなど様々な場所へ連れて行ってくださいました。2人には今回つながったご縁を大切に、彼らの国と和歌山県との絆がより一層強くなるよう、県人会活動を支える人材になってもらいたいと思います。ご協力くださったみなさん、本当にありがとうございました。

プレゼン発表する松宮くん



お墓参りする馬場くん



ホスト等お世話になった方々



外国人住民とのネットワーク会議 —外国人住民の意見を施策に—

和歌山県には、平成29年6月末現在、72ヶ国6,365人の在留外国人がいます。和歌山県国際交流センターでは、外国人生活相談員を置き、外国人住民からの相談を受けていますが、相談内容からは外国人住民に共通した深刻かつ喫緊の問題が浮き彫りになっており、それらの問題が地域の課題として顕在化していることが窺われます。しかし残念ながら、本県においては諸課題についての情報収集が十分におこなわれておらず、課題への対応もまだまだ十分ではないと思われれます。

そのような中、当協会では、平成28年度「在住外国人支援ネットワーク推進事業」を実施しました。和歌山県内に在住し様々な形で外国人支援につながる活動を行っている外国人住民や関係行政機関等で構成した会議では、「日本語の習得」「外国につながる子どもの教育問題」「多文化共生社会を実現していくため」をテーマに意見交換を行いました。

その結果、地域に暮らす外国人住民が直面している問題をより深く掘り下げる必要があるという結論に達したことから、平成29年度において、元京都市福祉事務所中国帰国者支援相談員 飯田奈美子氏をファシリテーターに迎え、6名の外国人住民（中国、フィリピン、タイ、インドネシア、アメリカ、オーストラリア）が会議メンバーとなり、各関係機関の担当者がオブザーバーとなって、引き続き話し合いを続けることとなりました。

話し合いのテーマは「外国につながる子どもの支援」や「医療・福祉・防災・労働・交通」について4回の会議を開催し、各回毎に話し合った内容を最終的にまとめて行政等の関係機関や団体に「外国人住民の生の声」として伝えていくこととしました。この会議の報告書は3月末までに発行します。



◎公益財団法人和歌山県国際交流協会（WIXAS）は賛助会員を募集しています。

和歌山県内の各分野での国際交流活動、国際相互理解及び国際協力を促進するとともに、在住外国人への支援を推進しています。ことは、民族、国境を越えて誰にでも開かれた地域社会づくりを図り、ひいては国際社会の平和と発展に寄与することを目的に活動しています。

ぜひ当協会の活動にご賛同ください。

《賛助会員》会費3000円/年

《特典》イベントのご案内/情報誌の配布

〒640-8319

和歌山市手平 2-1-2 和歌山ビッグ愛 8F

TEL : 073-435-5240 / 073-423-5717

FAX : 073-435-5243

URL: <http://www.wixas.or.jp>

和歌山県国際交流センター
〒640-8319
和歌山市手平 2-1-2
和歌山ビッグ愛 8F
TEL : 073-435-5240
FAX : 073-435-5243
開館時間 : 水曜日・祝日を除く
毎日 10:00~18:30
URL : <http://www.wak-kokusai.jp>

